2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月12日

上場会社名　　オカダアイヨン株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　6294　　ＵＲＬ　https://okadaaiyon.com/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）岡田　祐司
問合せ先責任者　（役職名）専務取締役CFO　　（氏名）前西　信男　　ＴＥＬ　06-6576-1281
半期報告書提出予定日　　2026年11月12日　　配当支払開始予定日　2026年12月11日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有　（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	13,330	3.4	1,218	△2.6	1,104	△11.8	731	△13.9
2026年３月期中間期	12,890	△1.4	1,250	7.4	1,253	13.7	849	16.2

（注）包括利益　2027年３月期中間期　1,036百万円（43.7%）　2026年３月期中間期　721百万円（△35.4%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	90.73	82.92
2026年３月期中間期	105.52	105.32

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年３月期中間期	40,115	18,522	46.2	2,296.67
2026年３月期	39,984	18,082	45.2	2,243.18

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　18,513百万円　2026年３月期　18,074百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	0.00	－	75.00	75.00
2027年３月期	－	38.00			
2027年３月期（予想）			－	38.00	76.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,500	5.6	2,500	10.6	2,500	6.7	1,700	14.0	210.99

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規　ー社　（社名）　　、除外　ー社　（社名）

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P. ７「２. 四半期連結財務諸表及び主な注記（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：無

④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	8,378,700株	2026年３月期	8,378,700株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	317,660株	2026年３月期	321,360株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	8,059,190株	2026年３月期中間期	8,050,273株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. ２「1. 当中間決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 2
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 3
（１）中間連結貸借対照表 …… 3
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 5
中間連結損益計算書 …… 5
中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 7
（会計方針の変更） …… 7
（中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 7
（セグメント情報等の注記） …… 8
３．その他 …… 8

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済及び世界経済は、米国関税政策や保護主義的な動きを巡る先行き不透明感、資源・エネルギー価格の動向、中東情勢をはじめとする地政学リスクの影響等が景気の下押し要因になったものの、AI関連需要の拡大などを背景に、総じて緩やかな成長が続きました。一方、当建設機械業界では、国内においては、人手不足や建設コストの上昇等が続くなか、建設機械需要全体は弱含みで推移したものの、海外では北米・欧州を中心に底堅い需要が続きました。

このような事業環境のもと、当社グループは2026年５月に新中期経営計画「ONYX」を策定し、企業価値向上に向けた取り組みを開始いたしました。「ONYX」では、売上規模の拡大に加え、利益の質、成長の再現性及び資本効率を重視し、持続的な企業価値向上の実現を目指して各種重点施策に取り組んでおります。一方、事業活動においては、国内の生産体制強化とアフタービジネスの強化、海外における営業体制拡充など、従来から取り組んでいる成長施策を継続して推進いたしました。

その結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高13,330百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益1,218百万円（前年同期比2.6%減）、経常利益1,104百万円（前年同期比11.8%減）、親会社株主に帰属する中間純利益731百万円（前年同期比13.9%減）となりました。

当中間連結会計期間のセグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

国内セグメントは、売上高9,718百万円（前年同期比1.0%減）と減収となりました。機種別には、主力の圧砕機は再開発やビル・工場等の建替等による解体需要が引き続き堅調ではあるものの、工事現場の工期遅れ等による納期ズレやレンタル各社の買い控えの影響等もあり売上高4,330百万円（前年同期比6.0%減）となりました。輸入商材の大型環境機械は円安進行による仕入価格の高騰から様子見モードが続き売上高307百万円（前年同期比10.4%減）となりました。油圧ブレーカは売上高426百万円（前年同期比4.0%減）、林業機械も売上高729百万円（前年同期比3.7%減）となりました。ケーブルクレーン事業は、再生可能エネルギーとして見直されている水力発電所の改修工事などの受注は順調ながら、工期の関係などから売上高524百万円（前年同期比3.0%減）となりました。一方で、つかみ機は木造解体、災害復興等の需要が回復し706百万円（前年同期比7.1%増）となりました。アフタービジネスに関しては、原材料売上は1,086百万円（前年同期比15.2%増）、修理売上高679百万円（前年同期比18.5%増）と底堅い伸びとなりました。その結果、セグメント利益は減収による影響等により893百万円（前年同期比16.1%減）と減益となりました。

海外セグメントは、売上高3,612百万円（前年同期比17.4%増）と増収となりました。主力地域の北米ではレンタル各社の在庫調整の影響が徐々に緩和されてきており売上高2,583百万円（前年同期比22.6%増）となりました。欧州は住宅需要が底打ち、公共投資の回復が需要を牽引したことから売上高627百万円（前年同期比17.5%増）となりました。アジア地域においては台湾、タイで販売が拡大し売上高322百万円（前年同期比11.5%増）となりました。セグメント利益に関しては331百万円（前年同期比72.3%増）と増益となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産の部）

当中間連結会計期間末における資産の残高は、40,115百万円（前連結会計年度末39,984百万円）となり130百万円増加しました。受取手形及び売掛金が956百万円減少しましたが、現金及び預金が540百万円、建設仮勘定が251百万円、商品及び製品が168百万円それぞれ増加したことが主な要因です。

（負債の部）

当中間連結会計期間末における負債の残高は、21,593百万円（前連結会計年度末21,901百万円）となり308百万円減少しました。支払手形及び買掛金が642百万円増加しましたが、長期借入金が232百万円、1年内返済予定の長期借入金が227百万円、未払法人税等が198百万円、短期借入金が173百万円それぞれ減少したことが主な要因です。

（純資産の部）

当中間連結会計期間末における純資産の残高は、18,522百万円（前連結会計年度末18,082百万円）となり439百万円増加しました。剰余金処分の配当金支払604百万円を行いましたが、親会社株主に帰属する中間純利益731百万円を計上したことが主な要因です。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年５月14日に公表いたしました2027年３月期の通期連結業績予想につきましては変更しておりません。今後の業績推移を踏まえ修正の必要が生じた場合は速やかに開示いたします。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,517,451	6,057,928
受取手形及び売掛金	4,892,607	3,936,567
電子記録債権	1,233,805	1,048,837
商品及び製品	8,018,404	8,186,542
仕掛品	330,742	434,251
原材料及び貯蔵品	4,777,892	4,923,313
その他	613,216	497,645
貸倒引当金	△1,732	△1,416
流動資産合計	25,382,388	25,083,669
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,818,904	5,774,306
機械装置及び運搬具（純額）	841,210	912,098
土地	5,783,238	5,796,458
建設仮勘定	8,754	260,639
リース資産（純額）	449,097	502,451
その他（純額）	70,492	99,302
有形固定資産合計	12,971,698	13,345,256
無形固定資産		
のれん	88,308	68,306
その他	272,881	364,128
無形固定資産合計	361,190	432,434
投資その他の資産		
投資有価証券	567,137	561,343
長期貸付金	203,850	203,850
繰延税金資産	472,053	489,410
その他	131,390	104,084
貸倒引当金	△105,259	△104,740
投資その他の資産合計	1,269,172	1,253,947
固定資産合計	14,602,061	15,031,638
資産合計	39,984,449	40,115,307

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当中間連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,369,587	2,011,855
電子記録債務	190,058	175,639
短期借入金	11,151,183	10,977,431
１年内返済予定の長期借入金	2,226,072	1,998,464
未払法人税等	568,008	369,354
賞与引当金	311,000	312,734
役員賞与引当金	45,890	1,800
株主優待引当金	60,258	8,406
その他	1,194,170	1,149,598
流動負債合計	17,116,229	17,005,285
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	1,514,000	1,512,500
長期借入金	2,487,767	2,255,113
退職給付に係る負債	527,488	542,805
その他	256,211	277,360
固定負債合計	4,785,467	4,587,779
負債合計	21,901,697	21,593,064
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,221,123	2,221,123
資本剰余金	2,294,988	2,299,879
利益剰余金	12,635,384	12,762,278
自己株式	△214,688	△212,216
株主資本合計	16,936,807	17,071,064
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	242,124	222,884
繰延ヘッジ損益	－	△903
為替換算調整勘定	895,142	1,220,520
その他の包括利益累計額合計	1,137,267	1,442,501
新株予約権	8,677	8,677
純資産合計	18,082,752	18,522,243
負債純資産合計	39,984,449	40,115,307

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	12,890,579	13,330,419
売上原価	8,918,754	9,104,040
売上総利益	3,971,825	4,226,379
販売費及び一般管理費	2,721,148	3,008,328
営業利益	1,250,676	1,218,050
営業外収益		
受取利息	4,289	16,127
受取配当金	16,407	14,463
固定資産売却益	59,815	23,536
貸倒引当金戻入額	136	325
為替差益	18,619	－
持分法による投資利益	3,310	21,126
その他	8,245	36,985
営業外収益合計	110,823	112,564
営業外費用		
支払利息	93,036	122,326
為替差損	－	66,476
リース解約損	10,227	1,237
固定資産除売却損	5	24,700
債権売却損	3,240	691
デリバティブ評価損	1,531	－
その他	453	10,232
営業外費用合計	108,494	225,664
経常利益	1,253,005	1,104,950
特別利益		
投資有価証券売却益	29,825	－
受取保険金	10,890	－
特別利益合計	40,715	－
特別損失		
和解金	26,000	－
損害補償金	13,800	－
特別損失合計	39,800	－
税金等調整前中間純利益	1,253,920	1,104,950
法人税等	404,425	373,756
中間純利益	849,495	731,194
非支配株主に帰属する中間純利益	－	－
親会社株主に帰属する中間純利益	849,495	731,194

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	849,495	731,194
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19,608	△19,240
繰延ヘッジ損益	1,184	△903
為替換算調整勘定	△149,267	325,377
その他の包括利益合計	△128,474	305,234
中間包括利益	721,020	1,036,428
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	721,020	1,036,428
非支配株主に係る中間包括利益	－	－

（３）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

※　現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
現金及び預金勘定	4,783,887千円	6,057,928千円
預入期間が３か月を超える定期預金	△326,692	△24,586
現金及び現金同等物	4,457,195	6,033,342

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,813,075	3,077,504	12,890,579	－	12,890,579
セグメント間の内部売上高又は振替高	363,431	6,435	369,867	△369,867	－
計	10,176,506	3,083,940	13,260,447	△369,867	12,890,579
セグメント利益	1,065,197	192,432	1,257,630	△6,953	1,250,676

（注）１　調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△6,953千円は、セグメント間取引消去であります。

２　セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,718,347	3,612,071	13,330,419	－	13,330,419
セグメント間の内部売上高又は振替高	472,990	5,072	478,062	△478,062	－
計	10,191,337	3,617,143	13,808,481	△478,062	13,330,419
セグメント利益	893,574	331,652	1,225,226	△7,176	1,218,050

（注）１　調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△7,176千円は、セグメント間取引消去であります。

２　セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

３．その他

ハイブリッドバケット製造販売に係る訴訟

当社が製造・販売するハイブリッドバケット(林業機械)における一部の仕様について、松本システムエンジニアリング株式会社より当社に対して、特許侵害訴訟が提起されています。なお、現時点では影響額を合理的に見積ることは困難です。